児童・ポワント科

バレエを通して豊かな情操を

子どもたちにとって、
トウシューズを履く瞬間は憧れであり、
大きな夢の扉を開く出来事です。

児童科

小学校低学年の児童科は、トウシューズに向けた準備期間。正しい基礎を繰り返し練習し身につけしっかりとした土台を築きます。

ポワント科

いよいよ憧れのトウシューズを履き、
新しい世界へと一歩を踏み出します。
より本格的なバレエの学びが広がり、踊りの表現も大きく羽ばたきます。

知性と感性
美しさを感ずる心

「踊るって楽しい！」

美しい音楽、きらびやかな衣装、舞台の明かり――

バレエには、お子さんの感性を刺激する魅力があふれています。

新たな踊りとの出会い。
憧れの作品。
上達にともなって、広がる世界。

レッスンを重ね、
いくつかの舞台を経験して
「もっと上手になりたい」という
気持ちが芽生える時。

子どもたちは自らの力で成長していくようになります。

「どうすればもっとキレイになるかな？」

ー鏡をみつめながら自分を美しく魅せるー

細かな注意点に気を配り、
丁寧に、繊細に。

バレエの身体の使い方を
身につけていきます。

バレエレッスンで磨かれるのは
美への意識に他なりません。

より丁寧に、より繊細に。

動作を覚え、
音楽のテンポに合わせ
手足の動きや姿勢を保ち
バランスをキープする。

いくつものことを同時に
意識するバレエでは、
考える力も育ちます。

努力を重ねるほどに
動きには品が宿り、
内面の成長が外に
あらわれます。

しなやかな強さ

「できた！」の喜びが次の一歩を踏み出す力に

バレエは、コツコツと続けることで
技術が磨かれていきます。
最初は難しかったことも、少しずつ
形になっていくたびに、子どもたち
の顔には誇らしげな笑顔が。

その成功体験が「もっとやってみたい」
という意欲と自信を育ててくれます。